



自分たちでお米を育てる学校農園



しあわせ実感 緑の健康文化都市 秋田市

子どもたちの元気な声がこだまします
...白百合保育園で

産業振興のため、起業活動を支援します
...COAに入居が決まった(株)アルテのみなさん



到達点は、全県域の発展と 市民一人ひとりの“しあわせ実感”

本市も絶好の機会を見逃すべきではありません。私は、地場農産物を活用した学校給食への安定供給やスローフード運動、学校農園や郊外型市民菜園の設置などを通じて、地産地消体制の確立を

昨年末、本市周辺の町において、市町村合併に向けた具体的な動きがありました。私は、この動向を秋田市と周辺町村ともどもさらなる発展に向けた好機ととらえ、前向きに対応してまいりたいと考えております。

そして、その到達点にあるものは、全県域の発展であり、秋田市民一人ひとりの「しあわせ実感」であると信じています。

この状況は、我が国が戦後一貫して工業化社会を突き進み、大量生産・大量消費社会を築きあげてきた中で、退潮を続けた我が国農業にとっては大きなチャンスだと思います。

ひ実現させたいと考えています。これらの施策が有機的に効果を発揮し、農業サイドでは生産の拡大がはかられ、消費者サイドにあつては、秋田の大地から生まれた食をとおして真の豊かさを享受し、また、商業においての活発な取引の拡大を切に願っています。

な出発を期するものです。一方、デフレ経済や少子高齢社会にあつて、今、時代は大きな転換点に立ち、また、秋田市は新たな変革期を迎えています。

先進国の中でも極めて食糧自給率の低い我が国にあつて、消費者が求めているものは、外国産より価格的には高くても安心・安全な農産物でしょう。その意味で国内産への期待は大きく、生産と消費が直結した安心できる食生活を実現するために、生産者と消費者間の「顔の見える関係」が求められています。

行政を含む本市の農業や商業などの関係者は、食と農に関してはプロフェッショナルであり、職能ならぬ、高度な「食農」集団をめざすべきであると思えます。

このような状況の中で、私はあえて「秋田市一人勝ち構想」を唱えようとしています。

食品の生産・流通履歴を示すトレーサビリティシステムなどは、まさにこのような動きから生まれたものです。

意図するところは、県内他都市の勢いを減じさせようとするものではないと断言します。高次集積都市などの実現をとおして、これまで隣県に流出していた経済資源や文化資源を呼び込み、県内循環の拡大をはかるとともに、県外からの新規流入も誘引するなど、秋田市が県内各都市を牽引しようとする大きな計画です。

さらには、国内はもとより環日本海、そして遠くアジアに向けて大きく羽ばたこうとするものであり、市政運営にあたる意気込みを示すものでもあることをご理解願いたいと思います。

また、この施設の大きな特長は、秋田県が進める秋田地域IXプロジエクトがCOA内で展開されることにあります。東北初となるこのIX (Internet Exchange: インターネットの結節点) の運用により、本市における情報通信環境は飛躍的に向上し、高速大容量通信回線の利用が可能になることから、ビジネスチャンスの拡大が期待されています。

今後とも、幼稚園による保育事業への参入促進や認可外施設の認可、保育所の改築にあわせた定員増、規制緩和に沿った児童の受け入れ拡大などに積極的に取り組んでまいります。そして、三年後をめどに待機児童の解消をはかりたいと考えています。

「秋田市一人勝ち構想」を唱えようとしています。

安心して子どもを産み、育て、健やかな成長を願う、そのための環境づくりは、今や行政運営の根幹の一つです。そのため、現在、福祉施策のみならず教育や労働・

一昨年、我が国で初めてBSE (牛海綿状脳症) が確認され、食の安全性に対する信頼は大きく揺らぎました。また、食品の偽装表示や中国産野菜の残留農薬問題、無登録農薬問題など、食と農をめぐる重大な出来事が相次ぎまし

これらを契機として、ITやベンチャーなど新時代に対応した商工・サービスの振興と雇用の拡大に力を注いでまいります。

「秋田市一人勝ち構想」を唱えようとしています。

「秋田市一人勝ち構想」を唱えようとしています。

「秋田市一人勝ち構想」を唱えようとしています。

保育所待機児童の解消へ 子育て支援に力こぶ

地産地消は 農業のチャンス

めざせ高度な食農集団



地域で支え合うところを育みます
...昨年11月にオープンしたウエルビューいずみ

「顔の見える農業」へ... 飯島地区ふれあいランド